

好奇心から学習を始める

矢吹卓也

○はじめに

「箕面こどもの森学園」で低学年クラスの担当スタッフをしている矢吹卓也と申します。「箕面こどもの森学園」（以下、こどもの森）は、子ども一人ひとりの個性を尊重し、民主的に生きる市民を育むことを目的としたオルタナティブスクールです。フレネ教育やイエナプラン教育をベースに、ESD（持続可能な未来をつくる教育）を行っています。



本稿では、「好奇心」に関連する実践として、こどもの森の「プロジェクト」という時間について紹介します。

○プロジェクト～自分の好きなことややりたいことができる時間～

こどもの森では、「プロジェクト」という自分の好きなことややりたいことができる時間があります。お昼休み以降の4・5コマ目の時間はだいたいプロジェクトの時間があり、こどもたちはそれぞれ自分の好きなことややりたいことに取り組んでいます。

	月	火	水	木	金
9:00～9:20	ハッピータイム				
9:20～10:00	ことば・かず	ことば・かず	ことば・かず	ことば・かず	ことば・かず
10:10～10:50	ことば共同		ことば共同	テーマ	
11:00～11:40	スクールワーク	テーマ	プロジェクト／選択		学習計画
11:40～13:00	昼休み		ミーティング・掃除	昼休み	
13:00～13:55	プロジェクト／選択	プロジェクト／選択		全校集会	プロジェクト
14:00～14:40				プロジェクト／選択	
14:40～15:00	ミーティング・掃除			ミーティング・掃除	

好きなことややりたいことというものは人それぞれです。個別にやっている人もいるし、共同でやっている人もいます。以下は、やっていることの例です。

- ・スライムづくり
- ・お家づくり
- ・木工で武器づくり
- ・実験
- ・イラスト
- ・劇づくり
- ・クッキング



プロジェクトは「やってみたい」「気になる」という気持ちから始まります。

例えば「スライムづくり」を始めた子は、他の人がプロジェクトでスライムをつくっているところを見たことをきっかけとしてスタートしました。

「スライムってどうやってつくるんだろう？」

「スライムにもかたいものやとろとろのものなどいろんなものがあるぞ」

「あのスライムの色きれい！自分もつくってみたい！」

そこには、いろんな形の「好奇心」があります。プロジェクトの時間は湧いてきた好奇心をすぐに実行できる時間なのです。週の終わりに来週のプロジェクトの計画を立てますが、計画はそのときの自分の感覚に合わせて変更することも可能です。

好奇心が満たせる時間がほぼ毎日確保されていることや、その続きを自分のペースでやっていける時間がたっぷりあること。プロジェクトとは、こどもたちの好奇心を自分のペースで満たしていける時間なのです。

○好奇心を満たすためにいろんな試行錯誤ができること

プロジェクトの時間は、多くの人が同じプロジェクトをやり続けています。同じプロジェクトですが、こどもの話を聞くとそこには様々な試行錯誤があることがわかります。

(スライムの例)

「今回のはな、少し固めにつくってん。」

「一度出来上がったスライムもイメチェンできるねん。石鹸入るとふわふわ、水を入るととろとろになるねん。」

「失敗したと思っても、頑張って混ぜ続けたらちゃんと固まんねんで。」

「こうしたらどうなるだろう?」「これやってみたいな」があるとプロジェクトはとても充実した時間になります。プロジェクトで大事なことは、その人自身の「好き」や「やってみたい」という気持ちと繋がっていることです。



スタッフはこどもたちとのやりとりを通して、「その人自身がやりたいことをやっているか?」ということを見ています。

その人自身がやりたいことではなく、周りの人に流されて目の前のプロジェクトに取り組んでいるようなときには、その人の学びには繋がりにくいのです。そんなときは、その人と「最近どんなことに興味があるか?」「どんなことが好きか?」という話をして、その人の好奇心や興味関心からプロジェクトを始められるようにサポートしていきます。

○プロジェクトの意義

このように自分の好きなことややりたいことから学習を始めるプロジェクトの時間ですが、その意義は2つあるように思います。1つ目は、自分の好きなことや、自分自身について知れること、2つ目は、自分の人生をデザインする力を育んでいけることです。

先日、研究発表会というプロジェクトの発表の場で6年生の人たちが、「長期プロジェクト」として、6年生の1年間の間に取り組んできたプロジェクトの発表をしていました。そこで、6年生の人たちが話していたことが、この二つの気づきに溢れていてとても素敵だったので紹介します。

①自分の好きなことや、自分自身について知れること

ピアノを独学でずっとやっていた子は、「自分にとってピアノはやり続けていても苦にならないし、自然とやりたくなってしまう」ということを話していました。人が生き生きするのは、本当に自分がやりたいことをやれているときだと思います。自分自身がやりたいことと出会い、それに取り組めている時間は、満たされた自由を感じるととても幸せな時間だと思います。

②自分の人生をデザインする力を育んでいけること

サッカーの技術向上に取り組んだ子は、目標を立てずにサッカーの練習をしていた以前の自分と比べ、目標を立ててやった方が達成感を感じられて良かったことや、学校の庭が狭くサッカーがしづらかったため、全校集会で仲間を集めて、自分でサッカー場を予約して、練習しに行った話をしてくれました。

ただ練習するのではなく、目標を立てて一つずつ実現していくことの価値や、環境が限られていても、自分たちの工夫でやりたいことを実現していけるということを身をもって証明してくれて、発表を聞いた人の中には、感動して涙する人も出てくるような素敵な発表の場となりました。

○終わりに

学習の場とは、上で書いたような好奇心をスタートとして、その人や周りの人が生き生きする状態であることが大事だと思います。そのような自分自身の感覚に対して真正性のある学習環境では、こども達は自然と主体的になるし、そのための環境と時間があれば長い時間をかけて深い変容が起こります。このような深い学びをこれからも大事にしていきたいです。

今回の寄稿の依頼をいただいたおかげで、改めて「好奇心」について考える良いきっかけになりました。「好奇心・興味・関心の違いはなんだろう？」とか「好奇心には問いが生まれるような『?』マークのものもあるな、やってみたいと惹かれるような『!』のものもあるな」など。イエナプランでは、ハテナマークの問いの形が中心になっているような気がしましたが、こどもの森のプロジェクトはびっくりマークの「やってみたい」の比重が多いように感じました。「この違いはなんだろう？」ということについてはまたの機会に考えてみたいと思います。今後も学習者中心の学びの形について私自身も探究していきたいと思います。